

第33回数学史シンポジウム

標記の研究集会を下記の要領で開催しますので、ご案内申し上げます。

主催 津田塾大学 数学・計算機科学研究所

世話人 佐藤文広（立教大学、津田塾大学 数学・計算機科学研究所）

中屋敷厚（津田塾大学 数学科）

日程：2023年10月14日（土）、15日（日）

場所：津田塾大学5号館（AVセンター棟）5101教室 + オンライン（Zoom）

プログラム

10月14日（土）午前

9:20 - 9:25 はじめに

9:30 - 10:30 上野健爾（特別講演）
関孝和と Bézout の終結式について

10:40 - 11:20 前田博信
判別式が正の非平方数の整数係数2元2次形式の周期について

11:30 - 12:10 大山 陽介
超幾何級数・小史

10月14日（土）午後

14:00 - 14:40 田中紀子、松原望
現実の現象を描く確率・統計 - Pattern Theory

14:50 - 15:30 鈴木真治
確率論学者としての亀田豊治朗の業績 — 過渡期の数学者 —

16:00 - 16:40 但馬亨
『百科全書』におけるダランベールの数学観

16:50 - 17:30 杉本遥菜-但馬亨
「ガロア・シュヴァリエ書簡に見るガロア理論」

10月15日(日) 午前

9:30 - 10:30 三浦伸夫 (特別講演)

パスカルとユークリッド『原論』——17世紀西洋における幾何学思想の一面

10:40 - 11:20 神谷 徳昭

日本で出版されたリー代数という本の著作について

11:30 - 12:10 高崎金久

グラスマン多様体の起源

10月15日(日) 午後

13:30 - 14:10 河野 敬雄

陸軍大學校における「公算學」—新資料に基づく一考察—

14:20 - 15:00 宮田 義美

非西欧の数学としての甲骨文字の数字